

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 24 年 6 月 14 日 (2012.6.14)

【公表番号】特表 2011-520965 (P2011-520965A)

【公表日】平成 23 年 7 月 21 日 (2011.7.21)

【年通号数】公開・登録公報 2011-029

【出願番号】特願 2011-510594 (P2011-510594)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

A 6 1 K 31/351 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 19/06 (2006.01)

C 0 7 D 309/10 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 45/06

A 6 1 K 31/351

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 19/06

A 6 1 P 43/00 1 2 3

C 0 7 D 309/10

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 4 月 24 日 (2012.4.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

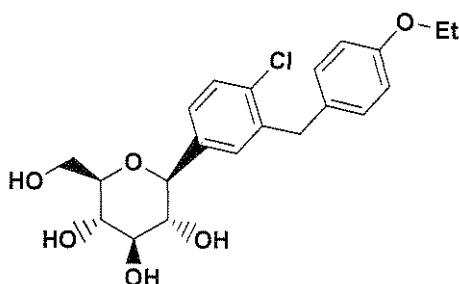
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

哺乳動物における高尿酸血症の治療において使用するためのナトリウムグルコース輸送体 2 (S G L T 2) 阻害剤であって、該 S G L T 2 阻害剤が、

【化 1】

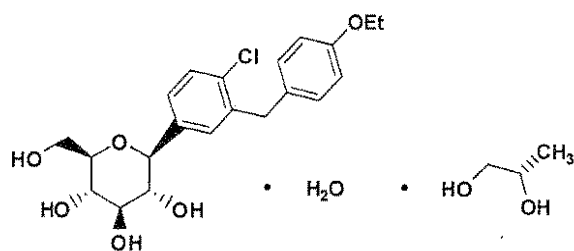


、またはそのプロドラッグエステル、またはそのプロピレングリコール溶媒和物である、S G L T 2 阻害剤。

【請求項 2】

該 S G L T 2 阻害剤が、

【化 2】



化合物 1a

である、請求項 1 に記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 3】

該 S G L T 2 阻害剤が尿量を増加し、かつ、血清総尿酸値を低下させることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 4】

哺乳動物がヒトである、請求項 1 ～ 3 いずれか 1 つに記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 5】

該ヒトが高尿酸血症の結果として痛風であり、かつ、高尿酸血症の治療が該ヒトの痛風の症状を防ぐことを特徴とする、請求項 4 に記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 6】

該 S G L T 2 阻害剤が、炭水化物の供給体の投与前に、投与後に、または同時に投与されることを特徴とする、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 つに記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 7】

該 S G L T 2 阻害剤が、尿酸合成阻害剤の投与前に、投与後に、または同時に投与されることを特徴とする、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 つに記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 8】

該尿酸合成阻害剤がキサンチンオキシダーゼ阻害剤である、請求項 7 に記載の S G L T 2 阻害剤。

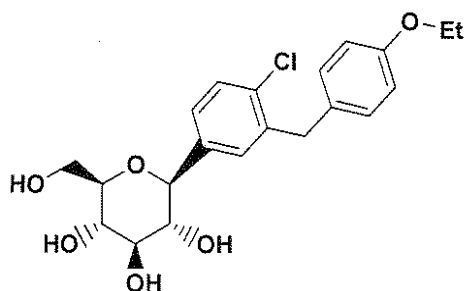
【請求項 9】

該 S G L T 2 阻害剤が低血糖症を誘導することなく高尿酸血症を治療するのに十分な量で投与されることを特徴とする、請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 つに記載の S G L T 2 阻害剤。

【請求項 10】

S G L T 2 阻害剤、および尿酸合成阻害剤または炭水化物の供給体を含む医薬組成物であって、該 S G L T 2 阻害剤が

【化 3】

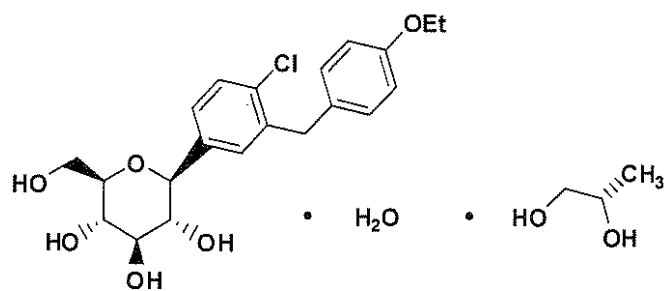


、またはそのプロドラッグエステル、またはそのプロピレングリコール溶媒和物である、医薬組成物。

【請求項 11】

該 S G L T 2 阻害剤が

【化 4】



化合物 1a

である、請求項 10 に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

該尿酸合成阻害剤がキサンチンオキシダーゼ阻害剤である請求項 10 または 11 に記載の医薬組成物。